

## ASF2021 仏文カフェ プロフィール

鈴木 諭 SUZUKI SATOSHI

1959年6月17日東京都台東区下根岸で小さな呉服商の長男として生まれ、下町風情の残る中根岸に住んでいます。(老舗料亭と三味の音色の町でした) 下町気質の人々と三社祭・入谷朝顔市・隅田川花火大会、酉の市等の風物に囲まれて育ちました。

高校時代にカミュの「異邦人」に出会い、何よりも小林秀雄訳「ランボー地獄の季節」に一撃を受けフランス文学を志向上智大学仏文科に入学しました。(1983年卒業)

大学時代には現代詩を読みふけることで時を過ごしました。好きな仏作家はボリスピアンとマンディアルグ、映画ではトリュフォーとジャンリュック・ゴダールです。一方肝心要のフランス語ではクレディフにうなされる夜を幾千も過ごしました。

TOKYO・GINZA・SHISEIDOの美しい宣伝(TACTICS・INOUI・揺れるまなざし等)

「1980年のフランス進出」に惹かれて1983年に資生堂入社。4年間の名古屋での営業経験を経て、国際部門に異動しSHISEIDOのグローバル・ビジネス活動に携わりました。主な経験業務は「海外スキンケア商品開発」「台湾駐在を含むアジアエリアマーケティング政策」「中長期グローバル商品計画(予算編成)」と「グローバルプロジェクト企画と推進」などです。グローバルプロジェクトでは「アジアホームマーケット構想」「SHISEIDOグローバルブランドイメージ刷新」「グローバルマルチブランド戦略」「CARITAブランド再生戦略」等を立案、現地で推進すべく渡仏しました。CARITA副社長、資生堂フランス副社長、ヨーロッパ地域本部マーケティング統括を勤めフランスには5年半駐在しました。帰国後も欧州事業統括として、フランス・ヨーロッパと接する幸福な時間を得ました。資生堂ではブランドマーケティングに携わる期間が長く、日本オリジナルな文化とハイテクノロジーを基幹としたSHISEIDOのブランドイメージを確立することがテーマでした。振り返ると「下町的な粋文化」「SOPHIAとSHISEIDOグローバル」の融合プロジェクトを追求してきたように感じています。

### 職歴

1983年 上智大学仏文科卒 同年(株)資生堂入社(名古屋支店で営業職)

1987年 本社国際部門に異動。SHISEIDOブランドグローバルビジネスに携わる

「海外商品(スキンケア)開発」・アジアエリアマーケティング政策」

「中長期グローバル商品計画と投資戦略立案」「グローバルプロジェクト立案」

2000年 フランスに駐在 カリタ副社長・資生堂フランス副社長等を歴任

2005年 帰任後海外事業本部にて欧州事業統括責任を勤める

2019年 (株)資生堂退職・現在 FIABILA ジャパン社長室顧問